

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームいずみの杜（かえで）	評価実施年月日	平成19年5月1日
評価実施構成員氏名	高村 洋子 ・ 萩原 志野 ・ 下込 房子 ・ 小嶋 玲子 ・ 竹田 君代		
記録者氏名	高村 洋子	記録年月日	平成19年5月25日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念に基づきながらも個々に合わせた援助を行いよりその人らしく生活できるように話し合っている	○	理念に沿いながら今後も本人が本人らしくよりよく生活できるようにしていきたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	全体の会議また内部研修などにおいて機会を見ながら説明や話をしているが徹底されていないこともある	○	取り組んではいるが不十分なところもあるので実践に向け改善していきたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	契約時に理念をご家族に説明すると共にユニットの入り口の常に目に触れるところに掲示しており家族などがいつでも見れるようにしている。また本社主催でのお祭りなどに地域の方も参加している	○	本社主催のお祭りなど今後も地域の方、家族に参加を呼びかけ入居者と共に交流ができるようにし理解していただけるようにしていく
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	買い物や散歩などの時に近隣の方と挨拶を交わすなどしている	○	今後はもっと気軽に立ち寄ってもらえるような関係にしていきたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭りや文化祭、運動会などに招待され参加している。また近隣の小学校の職場体験なども受け入れを行なっている	○	地域のお祭りや文化祭、運動会などに招待され参加している。また近隣の小学校の職場体験なども受け入れを行なっており今後も継続していきたい
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	人材育成の貢献として要望があれば実習生の受け入れは可能。地域の小学校からの職場体験など受け入れも行なっている。	○	地域のお祭りや文化祭、運動会などに招待され参加している。また近隣の小学校の職場体験なども受け入れを行なっており今後も継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価の結果は会議などで随時スタッフに伝えており改善にむけて検討をしている	○	評価の為だけではなく実際に日常の中でもっと活かせるようにしていく
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族会、運営推進会議共に前回の議題でとりあげられ検討項目に対する経過や報告を行なうと共に現状の取り組みや直近の行事予定などを伝えている。	○	家族会、運営推進会議共に前回の議題でとりあげられ検討項目に対する経過や報告を行なうと共に現状の取り組みや直近の行事予定などを伝えており今後も継続しケアの向上に活かしていきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	積極的な交流は難しい状態だが判断が難しい状況のときは電話等で確認している	○	日常の中で交流ができるように取り組んでいきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在成年後見人が必要なケースはないが今後研修などに参加し理解を深めていき職員にも伝えていきたい	○	現在成年後見人が必要なケースはないが今後研修などに参加し理解を深めていき職員にも伝えていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	身体拘束に関する研修に参加し内容をスタッフに伝えている	○	現在成年後見人が必要なケースはないが今後研修などに参加し理解を深めていき職員にも伝えていきたい
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の見学時や契約時に料金、緊急時の対応などについて説明をして理解を得るようにしている。	○	入居前の見学時や契約時に料金、緊急時の対応などについて説明をして理解を得るようにしており疑問点には納得していただけるようにその都度対応していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言動などから本人の思いを受け止める努力をしている。またユニット会議などにて利用者の不安などに対する思いを解消できるように話し合ったりしている。	○	利用者の言動などから本人の思いを受け止める努力をしている。またユニット会議などにて利用者の不安などに対する思いを解消できるように話し合っているが個々により受け止め方が違う為誤解のないようにしていく
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月ホームの通信などを送付したり面会時に日常の様子を伝えている。金銭等について明細、領収書共に送付している	○	毎月ホームの通信などを送付したり面会時に日常の様子を伝えている。金銭等について明細、領収書共に送付しており希望のある方には介護記録の写しも渡しており今後も継続していく
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言動などから本人の思いを受け止める努力をしている。またユニット会議などにて利用者の不安などに対する思いを解消できるように話し合ったりしている。	○	利用者の言動などから本人の思いを受け止める努力をしている。またユニット会議などにて利用者の不安などに対する思いを解消できるように話し合っているが個々により受け止め方が違う為誤解のないようにしていく
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム入り口に意見箱を設置している。また家族会などにおいて意見交換を行ない今後の参考にさせていただいている。契約時においても公共の窓口の案内もさせていただいている。	○	ホーム入り口に意見箱を設置している。また家族会などにおいて意見交換を行ない今後の参考にさせていただいている。契約時においても公共の窓口の案内もさせていただいている。苦情だけではなく気がついたことに関して常に教えていただけるようお願いしている
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況に応じ入浴時間をずらしたり24時間援助できるように1ヶ月のシフトを作成し対応をしている。管理者は日常のシフトにはいらず緊急時や状況の変化にも対応できる体制をとっている	○	利用者の状況に応じ入浴時間をずらしたり24時間援助できるように1ヶ月のシフトを作成し対応をしている。管理者は日常のシフトにはいらず緊急時や状況の変化にも対応できる体制をとっており今後も継続していく
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的には各ユニットの職員を固定化し顔なじみの職員による援助を心がけている。新しい職員が入る時も入居者一人一人に紹介している	○	基本的には各ユニットの職員を固定化し顔なじみの職員による援助を心がけている。新しい職員が入る時も入居者一人一人に紹介している

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月職場内研修を実施している。また外部研修に参加できる機会があるときは職員に順番に参加してもらい全体会議などで報告してもらっている	○	毎月職場内研修を実施している。また外部研修に参加できる機会があるときには職員に順番に参加してもらい全体会議などで報告してもらっている。自主的に資格取得の意思がある職員にはスクーリングや実習などに参加しやすいように調整している
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	区の連絡会やその他の研修などに参加し交流をしている	○	区の連絡会やその他の研修などに参加し交流をしている
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日頃からコミュニケーションを図るようにし意見。要望を聞くようにしている。休憩時間など落ち着いて過ごせるように専用の休憩室を設けている	○	日頃からコミュニケーションを図るようにし意見。要望を聞くようにしている。休憩時間など落ち着いて過ごせるように専用の休憩室を設けている
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者もホーム全体の催しに参加し利用者、職員と交流をしている。職員の資格取得に向けての支援などもおこなっている	○	運営者もホーム全体の催しに参加し利用者、職員と交流をしている。職員の資格取得に向けての支援などもおこなっており今後も継続していく
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談でご家族やご本人の生活状態や不安などを理解するように努め入居前にはご本人に見学に来てもらったり難しいときはスタッフの方が訪問するなどして受け入れてもらえるように心がけている	○	本人ご家族共に環境が変化することに対し不安を抱いているので話をよく傾聴し些細なことでも説明、理解していただけるようにしていく
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談を受け付けた時はまず相談者の話を傾聴し困っていること、不安に思っていることなどを理解するように努め利用する場合の流れやホームの雰囲気を見学時に説明をさせていただいている	○	本人、家族の訴えをよく傾聴しその中から必要としているものや求めているものを見極めながら今後も対応していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受け付けた時はまず相談者の話を傾聴し困っていること、不安に思っていることなどを理解するように努め利用をする場合の流れやホームの雰囲気を見学時などに説明をさせていただいている	○	相談を受け付けた時はまず相談者の話を傾聴し困っていること、不安に思っていることなどを理解するように努め利用をする場合の流れやホームの雰囲気を見学時などに説明をさせていただいている
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にはなるべく本人にも見学に来てもらい雰囲気を知ってもらったり難しい場合は職員が訪問するなどし本人の不安を軽減してもらえるように心がけている。入所後しばらくはご家族の訪問を多くしてもらうように依頼し新しい環境での生活になじみやすいようにしている	○	サービス利用直後は不安感が大きい為他の入居者や雰囲気になれてもらう為にも関わりを多くもちまた家族の訪問も多くしてもらうように働きかけ本人の不安感を軽減していく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご家族の来訪時など日常の様子を伝えたり申し出があればケース記録等閲覧してもらっている。ご家族には訪問時に限らず電話などでも要望などを伝えてもらうように説明をし協力関係を築けるように心がけている	○	些細なことでもすぐに話せる関係を築けるように今後も心がけていく
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の来訪時など日常の様子を伝えたり申し出があればケース記録等閲覧してもらっている。ご家族には訪問時に限らず電話などでも要望などを伝えてもらうように説明をし協力関係を築けるように心がけている	○	些細なことでもすぐに話せる関係を築けるように今後も心がけていく
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	外出や外泊など申し出があればいつでも可能であることを伝えご家族とご本人がよりよい関係を継続しやすいようにしている	○	本人とご家族がより良い関係を築いていけるように今後も外出や外がいつでも可能であること、また日常のなかで本人と一緒に過ごしたいという思いを訴えたときは家族の訪問時に伝えるなどしていく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所しても友人等が訪問してくれるなどの交流はあるが友人と一緒にの外出については家族の了解を得た方のみがしている	○	ご家族やスタッフとの外出以外にも友人や知人との外出は本人の状況に応じ家族と相談し了解を得ておこなっている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	買い物や外出など小人数の時は気の合う人同士組み合わせるなどし楽しく過ごせるように場面設定をおこなっている。お茶や食事などは職員も一緒にとり会話を待つようにしている	○	気の合わないもの同士でも共通の興味あるものや趣味などの時はスタッフが間に入るようにしていき自然に話せるように努めていきたい
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他の事業所へ移動された方に対しても交流は可能だが現在のところは実績はない	○	現在のところ実績はないが希望があれば交流をしていくことも検討している
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や表情から不安等を推測したりそれとなく確認しまたご家族からも要望などを聞き検討しながら本人らしく生活できるように努めている	○	日常の関わりの中で「話せる雰囲気」をつくり本人の不安や要望が理解できるように今後していきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用時に本人やご家族から聞き取るようにしている。また利用開始後も日常の会話の中からどんな生活をしていたかを聞いている。家族に聞き取りをおこなう時は本人のケアに生かすためであることをあらかじめ伝えてからおこなうようにしている	○	日常の会話の中から聞き取ることで他者との共通点などを見出し他者との新たな関係等を築けるようにしていきまた本人らしく生活するために活かしていけるようにしたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日常生活での関わりの中から本人のできることできないことに注目しユニット会議などで職員が把握できるようにしている	○	職員が把握できるように努めているが常に状況に変化があるので対応できるようにしていく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日常の関わりの中で本人や家族の要望、不安などを聞き介護計画に反映できるようにアセスメント、カンファレンスなどをおこなっている	○	日常の会話や身体状態の中から課題などを見つけたりしている

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご家族やご本人の要望を取り入れまたできる事はおこなっていけるような内容で期間が終了する前に評価見直しをおこなっている。また本人の状態により期間終了前にも見直しをおこなっている。	○	本人ができることを継続や維持をしていけるようにしている
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常におきチェック(水分、排泄、バイタル、入浴、食事等)をしていおり業務に入る前に確認できるようにしている。またそれぞれの個人記録のファイルにも個別に記入し介護計画などに反映できるようにしている	○	全体のチェック表から個人の記録に記入することで他者との比較と個人の平均がわかるようにしている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	希望があるときは家族との外出、外泊には常に対応している。	○	今後も継続していく
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	代表者が民生委員と地域の役員をしている。	○	直接的に交流していけるようにしたい。(今後地域の防災運動会等に参加していきたい)。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	近くに理容室に散髪に行ったり訪問の美容をしてもらっている。またご家族で美容師の方がおり時々カットなどに来てくれる	○	今後も継続していく、また地域包括センターで企画されている健康体操などにも参加していきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議で地域包括センターの職員と交流することにより会議終了後などに情報交換などできるようになってきている	○	情報交換はしているが不十分なところもあるため今後も継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関以外のかかりつけ医院の時は送迎は家族にお願いしている。協力医療機関の場合は月に1回定期的に往診してくれ受診も受付時間の場合は随時対応してくれている。また専門的な治療が必要な場合は専門医を紹介してくれるなどしている。	○	今後も継続していく
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医が認知症にも熱心な対応をしてくれている	○	状況に応じ専門医を紹介してくれているので今後も継続していく
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護士は配置していなく訪問看護ステーションとも契約はしていないが主治医の方からあらかじめ発熱時の対応方法や熱さましなどを処方してもらい対応している。	○	状況に応じ専門医を紹介してくれているので今後も継続していく
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は家族との情報交換などを頻繁にし退院後の対応について話し合い退院前には病院などにも状態を確認している	○	状況を見ながら今後検討が必要になると思う
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ターミナルケアを行っていない旨は契約時に説明している。重度化した場合はその都度家族や医師と話し合いをしながら対応をしている	○	重度化した場合などについて今後あらかじめ検討していく
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ターミナルケアについては契約時に行なっていないことを説明しているが急変時などは主治医と連携を取りながら対応している	○	急変時は主治医と協力しながら対応をしているが今後重度化した場合どこまでホームで支援できるかなどをあらかじめ検討していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他の事業所に移動された時は本人に対しどこでも同じ様な援助が受けれるように情報交換などを行なっている	○	本人にとっていい状態になるように今後もおこなっていききたい
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	全体会議などで守秘義務に関して話をしている。また言動についても常に指示的にならないように話をしている。	○	守秘義務の大切さや記録等の取り扱いについて今後も会議などで話をしていく
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	言語障害のある方には文字盤などを使用しそれ以外の方でも意思表示が難しい場合は「了解」「いや」で答えられるような声がけを心がけている	○	本人が表現しやすい雰囲気作りを心がけている
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な流れはあるが入居者の個性を重視して本人の時間を大切にしようとしている。	○	今後も継続していく
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	着替えなど自己決定の難しい人には職員と一緒に考えている。また日頃からも楽しんでもらえるように行事などを計画している	○	企画の行事だけではなく天気の良い日など近くにハイキングやドライブにいくなど楽しめるようにしている
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューは特に決めていなく冷蔵庫にあるもので作っている。おやつなども手作りを基本にしており入居者にレシピを教えてもらったりしながら食事と同様に一緒に食べてる	○	入居者に対しては強制ではなく自主的に手伝ってもらえるような声がけや促しを心がけている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコについては職員の方で管理させていただいており吸いたい時に声をかけてもらっている。飲酒については基本的に行事の時に飲んでもらっているが医師から禁止されている方もいるため他のフロアーに移動して摂取してもらうなどしている	○	喫煙する方においては火の管理だけはホームでさせていただいている
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を記入しトイレへの誘導を行なっている	○	今後も継続していく
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に毎日午後からおこなっており入浴の希望を聞きながら入浴してもらっている。入居者の精神的状況に応じて午前中などにも行なっている。	○	夜間入浴に関しては継続的に行なうのは現状では難しいので今後も検討していきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	なるべく日中の活動時間を促し生活リズムを整えるように努めている。夜間眠れないと訴える利用者には暖かい飲み物を提供するなどし落ち着いて睡眠が取れるようにしている	○	今後も継続していく
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人ができることを自然に行なえるように心がけている。また手伝ってもらったときは感謝の言葉を伝えている	○	今後も継続していく
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望で小額の現金を持っている方もいる	○	現金を持っている方については大きい金額は控えてもらうように家族等をお願いしている(物取られ、おき忘れなどあるため)

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	企画での外出だけでなく天気の良い日などは希望者を募りドライブや近くの公園などにハイキングに行ったりしている	○	今後も継続していく
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	果物狩りなど基本的に普段いけないところ等企画を立てて行く様にしている。(職員の勤務調整をしながら)家族にも案内を出し参加を呼びかけている	○	毎月の通信などでも翌月の行事などを掲載している
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	もうひとつの(2階)ユニットに公衆電話がありいつでもかけることができるようにしている。使用時はエレベーターの乗降があるため一緒に2階にいつている。またホームにかかってきたときはスタッフルームで話しができるようにしている	○	今後も継続していく
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族の訪問時間はおおまかにしか決めておらず気軽に立ち寄れるような雰囲気心をかけている	○	今後も継続していく
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止等の研修に参加し会議などで職員に伝えている。また日常の話し方によっても拘束になることを伝える	○	今後も研修などの機会があれば参加しホームでの会議などで伝えていくようにする
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間のみ鍵をかけている。また外出しそうな様子の時は声をかけたり一緒に散歩に行くなどしている	○	今後も継続していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼間はフロアーに職員がおり見守っている。夜間も状況の変化がないかを確認しながら安心できるようにしている	○	今後も継続していくと共に「いつも大丈夫だから・・・」という思い込みは持たないように心がけていく
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物は夜間鍵のかかるところに保管している。洗剤などについても目に触れにくいところおいている	○	利用者の目に触れないところにおいてあるが常に気をつけて見るようにしていく(入居者が誤飲しないように)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	アクシデントが発生したときには必ずカンファレンスを開催し再発防止に努めるようにしている。また誤嚥を起こしやすい入居者にはトロミを付ける等し個々にあわせた援助をするように心がけている。火災などの予防に関しても居室のカーテンなどは防災のものを使用してもらい喫煙する方は火の管理をさせていただいている	○	今後も継続していく
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応については会議などでも説明はしている(マニュアル作成)救命救急の講習については受講しているものといないものがいるので今後消防などに依頼し研修等を検討している	○	救命救急の講習については今年度中に再度行なえるように検討している
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回災害訓練を行なっている。訓練の中で避難経路の確認、消火器の使用方法、通報装置の使用方法和設備の確認などをしている。災害時の協力体制については推進会議などをお願いしている。またホームから5分圏内に職員が数名居住しており緊急時はすぐに駆けつけれる体制がある	○	災害訓練等の時には誘導方法他を確認している
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	訪問時や月1回の通信などで本人の表情や行動を見てもらい説明をしている	○	契約時や推進会議他訪問に来て欲しい旨を伝えている(本人が家族と離れたと思わないように)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日常の様子を把握すると共に1日2回はバイタルチェックを行っている。また食欲や顔色などの様子変化時はバイタルを再度確認し状況に応じて受診をしている。	○	今後も継続していく
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方箋は個別のファイルに閉じている。	○	処方された薬の内容等不安があるときは主治医や薬局に確認をするようにしている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維質の多い食材を使用し食事などを提供している。また水分も声がけや促しにより1日1500ccをめどに摂取してもらうようにしている。状況に応じ体操や散歩など身体を動かす機会を設けている	○	おやつ水分などにスポーツドリンクなども提供しており希望に応じて摂取してもらっている
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝夕の口腔ケアを実施している。また協力医療機関の歯科が訪問の際は歯磨き指導や技師の取り扱いについて利用者スタッフ共に説明を受けている	○	治療が終了した場合でも口腔ケアで訪問していただいている
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量はチェック表により随時確認できるようにしている。1日の食事量は1400カロリー以上をを目処にしており月に1度献立を抜粋し栄養摂取量を把握するようにしている。アレルギーや摂取できないものに関しては他の物に変更するなどし個別に対応をしている	○	定期的にカロリー計算をしている
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	主な感染症についてはマニュアルを作成している。インフルエンザについては家族の同意を得てインフルエンザの予防接種を受けてもらっている。ノロウイルス対策としてはペーパータオルの使用、ピューラックスを使用しての1日数度の消毒などを行ない対応している	○	市や保健所などから来る対応についての資料を基にしながら今後も継続していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、布巾等は毎日消毒している。冷蔵庫の清掃なども定期的に行なっており食材については無駄なく使用するようになりあまった食材などは冷凍などしている。	○	今後も継続していき食中毒などの予防に努めていく
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	やわらかい雰囲気になるように花壇を作ったりプランターを置いたりしている。ガーデニング用の柵やベンチを置き玄関先でくつろげるようにしている	○	車椅子が十分に通れるスロープがあり安心して出入りできるようにしている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングの真ん中に台所があり調理の音や匂いが感じられるようになっている。また談話スペースや畳ベンチなどを配置し好きな場所でくつろげるようにしている。入居者の好みや状態に合わせて音楽などかけることもある。リビングの窓からは花壇が見えるようになっており室内からも花の観賞ができるようにしている	○	これからもくつろげるように工夫をしていきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関先やエレベーターホールにベンチや椅子を置きくつろげる空間を作っている。	○	本人が安心して過ごせる場所ができるように心がけている
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には本人の使用していた家具などを持ってきてもらっている。カーテンなども防災であれば本人の好みのものにしてもらっている。仏壇(ロウソクは電気のもの)や趣味のステレオコンポ、DVDプレーヤーなどを持ってきたりするなど入居者の居心地に配慮している	○	今後も継続していく
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日掃除の時に喚起を行なっている。暖かいときは適程に換気を行なっている。冬期間暖房は各居室ごとに温度が調整できるようになっており本人に合わせた暖かさになっている。トイレには使用済みのコーヒーの粉を再利用し置くなどおり悪臭が出ないように配慮している	○	特に夏季は生ゴミなどの匂いが出やすいので気をつけていくようにしていく
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者が歩行しやすいように共有部分には手すりが設置されている。トイレの手すりについては1部可動式のものを設置しており個々の身体機能にあわせ自立できるように工夫されている。浴室にも手すりが設置されまたシャワーチェアーや滑り止めマットなどの利用で転倒の危険にも配慮している	○	手すりや滑り止めマット等利用しているが常に転倒や危険がないように心がけている
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室など間違えないように個別に手作りの表札を作成している。本人が混乱しないように説明や援助を行なう時などに同じような話し方をするように職員間で話あっている。状況変化時にもその都度経過を見ながら本人が混乱や不安にならないように心がけている	○	今後も一人一人のできることをおこなってもらいながら不安を軽減し自立してせいかつできるようにしていきたい
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の裏側だけでなく車椅子の方も楽しめるように玄関先にも花壇がありまたベンチなども置いてあるため日向ぼっこなどできるようにしている。建物の裏側には畑もあり一緒に楽しめるようにしている	○	道路や駐車スペースに面しているので移動の際には注意をして見守りをおこなっている

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない 3
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない 2
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない 2
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない 2
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない 2
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない 2
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない 2
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない 4
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない 3

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない2
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない2
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない3
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない3
【特に力を入れている点・アピールしたい点】		
(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)		